

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570801005		
法人名	有限会社 サンメディカル		
事業所名	グループホームあかしあ		
所在地	山口県岩国市今津1丁目10-9		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町受理日	平成29年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者自身のペースで生活してもらるように個々のニーズの把握に努めています。その時の思いに寄り添える介護を実践しています。食事は毎食手作りで、利用者と職員の共同作業で行い、役割を持ってもらえるような支援につなげています。年末はおせち料理をつくり、新年を迎えます。食材に旬のものを積極的に採り入れ、四季の移ろいを感じてもらえるように工夫しています。今までできたことがこれからもずっとできるように、職員一人一人が考えて行動しています。行きたいところへ行けるように、食べたいものを食べれるように、したいことをできるように一人一人の思いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの生活リズムや生活歴を尊重しておられ、理念に基づき思いや意向を把握され、買物や散歩、外食などの外出支援の他、ぬり絵や書き取り、気持ちを文章にするなど、張合いや喜びのある生活が送れるように支援をしておられます。生活の基本として食を重視され、食事づくりは三食とも事業所で、利用者と職員が協力して行っておられ、利用者のできることを活かされて、食事を楽しむことができるように支援されています。畑で収穫したゴーヤ、なすび、サツマイモを食材として使っておられる他、おせち料理、巻きずし、いなりずし、おはぎ、夏には屋上にテントを張ってそうめん流しをされたり、クリスマスのチキン料理など、食で季節を楽しむ工夫をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の下で、介護に対する向き合い方を確認しながら、現場で振り返りながら実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、日常業務の中で理念を確認しながら、利用者一人ひとりのケアについて考え、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、地域の敬老会や夏祭り、公園清掃に参加し地域の人との交流の機会にしている。年末には地域の人たちに協力してもらっての実戦さながらの消防避難訓練が恒例となっている。	自治会に加入し、管理者が総会に出席している。事業所だよりを定期的に自治会に回覧している。敬老会やふれあい祭(餅つき見学、食事)、年1回の公園の清掃に利用者と職員が参加している。市役所の食堂での食事や敷地内の公園で子ども達と交流をしている。近くのショッピングモールへ買い物にでかけたり、時計店に電池交換に行っている。隣接の法人施設の夏祭りでは、出店で買い物をし、やぐらを囲んで盆踊りを踊りながら住民と交流している他、参加している学生ボランティアと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に施設の中身を紹介する「あかしあ新聞」を発行し、地域の回覧版で回してもらっている。その中に認知症の人への対応方法なども盛り込み認知症を理解してもらえるように努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価に取り組んでいる。改善事項はミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、ミーティング時に評価の意義を説明し、自己評価は、職員が項目を分担して記入したものを管理者がまとめている。全職員で取り組んでいるとは言えない。評価を活かして具体的に取り組むまでには至っていない。	・全職員による自己評価への取り組み ・評価を活かした取り組み	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・助言などをもらい、それを現場での改善に活かしている。その後も経過を報告し、次の改善につなげている。	会議は年6回開催している。利用者の現況報告、行事予定、行事報告、消防訓練実施報告、事故・ヒヤリハット報告、交番からの連絡事項、外部評価への取組状況等について説明し、意見交換している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、現状を理解してもらおうとにも相談したり、助言・意見をもっている。	市担当者とは、直接出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について一人一人が正しく理解するように努めている。施錠しないケアに取り組んでいる。	身体拘束について内部研修で学び、日常業務の中でも職員間で話し合っ、全職員が身体拘束をしないケアについて理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。エレベーターや階段の利用は自由で、玄関は施錠していない。外に出たい利用者には職員と一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で職員が学ぶ機会を設けている。虐待とは意識しない虐待が起こらないよう職員同士が注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も制度を利用している人がいる。必要に応じて活用できるよう支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安がないように十分に説明している。利用者や家族からの疑問点だけでなく、不安を持ちそうな点についてはこちらから敢えて十分に説明するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に個別に話をしたり、面会の機会が少ない家族には電話で連絡をとっている。運営推進会議や家族会等でも意見や要望を聴くようにしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族には、事業所だよりで利用者の普段の様子を知らせている他、年間行事(桜の花やバラ見学、クリスマス会など)の案内をして参加を促すなど、意見が出しやすい関係づくりに努めている。面会時や運営推進会議時、敬老会等の行事参加時等で、家族からの意見や要望などを聞いている。利用者や家族からの要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体ミーティング、年二回の個人面談で意見や要望を聴いている。	管理者は、月1回の全体ミーティングや年2回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で、各ユニットリーダーが職員の意見や提案を直接聞いたリ、メモを通じて把握している。職員の意見や提案を活かして、夜勤者の勤務内容を変更しているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格、また職員の努力や成果について把握し、指導助言を行い向上心をもって働けるように努めている。給与水準の引き上げなど処遇改善への反映をはかり、やりがいのある職場であるよう環境整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画を作成し、月1回勉強会を行っている。外部研修は職員に情報を伝え、研修の機会を提供している。新人研修は入社時に行っている。資格取得の勉強会など、働きながら技術や知識を身につけられるように支援している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を設け、受講後は伝達研修を行っている。法人全職員が対象の研修として、今回は「アンガーマネジメント」のテーマで行っているなど、年2回実施している。グループホームでは、月1回、食中毒、褥瘡予防、ノロウイルスやインフルエンザ、高齢者虐待、心に寄り添う支援などのテーマで実施し、参加している。新人研修は、管理者が1対1で2日程度実施している。資格習得の勉強会は管理者が講師となっており、勤務体制の配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、地域密着型サービス事業者連絡協議会で勉強会や意見交換を行い、サービスの質の向上につなげている。それぞれの事業所の抱えている問題を話し合うようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や見学の機会を設け、何気ない会話の中から本人の想いや希望を収集し、情報を職員間で共有し本人が安心して過ごせる関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安と思っている事や要望を最初に聴き把握し、不安に思っている事は家族に連絡し状況を報告し、家族との距離が離れないように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めての相談時に本人や家族の状況を把握し、やみくもにグループホームを勧めるのではなく、個々の状況に応じたサービスの紹介等を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が家事等を一緒に行い、共生しているという関係を築くようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あかしあ通信にて身体状況、生活の近況報告したり、普段から来所しやすい環境をつくっている。家族会などの行事にも参加してもらうなど共に本人を支える関係を築くよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知人の来訪、馴染みの人に年賀状を出したり、家族の協力を得て、外出、外泊、外食、法事への出席、墓参り、買い物など馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。	家族の面会、親戚の人や友人、以前近所に住んでいた人、趣味仲間の来訪がある他、年賀状を交換したり、電話の取次ぎの支援をしている。馴染みのショッピングモールや行きつけの時計店へ出かける支援をしている。家族の協力を得て、馴染みの美容院に行く、買物、外食、外出、自宅への一時帰宅、結婚式への出席、墓参り、法事への出席、盆や正月の外泊など、関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格を把握し、レクリエーションや行事など関わり合える場面をつくり、孤立しない支援を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスへ移行しても、その後の経過等で困りごとがあれば相談してもらえ関係を築くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの行動や会話を大切に職員同士で話し合い、思いや意向の把握に努めている。	入居時のアセスメントを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動などを介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の表情や仕草から推し量り、職員間でカンファレンスで話し合い、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話、入所時の情報からこれまでの生活歴・生活習慣などを把握し、本人主体のサービス提供ができるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のケア記録、医療連携記録、申し送りを徹底している。出勤時には必ず確認し、分からないことや疑問に思うことについては、その都度解決し情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成する際には事業所独自のカンファレンス用紙を使用し職員全員で関わっている。利用者の要望、また主治医・家族からの意見等を取り入れ、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況に則した計画を作成している。	計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心に、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見、職員全員が記入したカンファレンス用紙の内容を参考にしてカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた時はその都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や管理日誌、日常の申し送りで情報を共有している。利用者の思いをつぶやきノートに記録して、介護計画の見直しに活かしている。見直しや気づきがあった際には、その都度話し合いの機会をもつ機会をもつようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や医療連携看護師、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限り外出の機会をつくり、好きな食べ物や消耗品等を職員とともに近所の店に買い物に行ったり、公園に散歩に出かけたりと毎日を楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を踏まえた上で、主治医にも相談しながら受診を進めている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月1回の定期受診を支援している。緊急時や夜間を含め24時間対応できる。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科受診は必要時に受診支援をしている。家族には、電話で報告している。医療連携看護師に、処置を含め受診前の相談を行い助言を得ている。医療連携記録を整備し、受診時にはその結果も記録し、看護職と共有している他、医療連携看護師との連携を図っているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携の看護師が来所し、利用者の日常の健康管理を定期的におこない、職員からの医療的相談など24時間体制で対応してもらっている。医療ファイルに日々の状態を記入し職員全員で確認し合える体制にしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、当施設が提供でき得る情報については提供し、お見舞いに行くなど、できるだけ利用者の不安を解消できるように努めている。退院に向けては入院先相談員と相談、連携を図るよう心掛けている。出来るだけ早く退院して元の生活を送れるように連携している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族に看取りを含めた重度化指針について説明している。重度化、終末期等において早い段階から本人、家族と話し合いを持っている。不安を理解し、説明を十分に行っている。主治医、連携看護師と緊急時の対応を共有し、連携を密に取っている。	看取りを含めた重度化指針があり、契約時に本人や家族に説明している。重度化した場合は、家族や主治医、医療連携の看護師等関係者で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。職員は、医療連携の看護師の協力を得て看取りの研修を行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護師や消防署に協力してもらい、応急手当や救命講習、初期対応の講習を受け職員全員が緊急時の対応ができるよう努めている。	ヒヤリハット報告書を、「気づくカレポート」に変更して活用し、全職員に回覧し、ミーティングで話し合い、情報を共有して再発防止に取り組んでいる。誤薬に関しては、ミスに気がつくことのできるシステムを構築し、管理者が職員と共に考え、改善に向けて取り組んでいる。緊急時の対応については、医療連携の看護師による講習会(脳梗塞再発の発見、体位の工夫、転倒時や意識不明時の対応)で学んでいる他、消防署の協力を得て、骨折時の応急手当、搬送時の注意点、窒息時の殴打法や心肺蘇生法について学んでいる。	・応急手縦や初期対応の定期的訓練の実施継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については2ヶ月ごとの訓練を通し、全職員が避難方法を身に付けるよう努めている。年1回地元消防団や近隣の方々の協力を得て、消防避難訓練を実施し関係を築いている。	地震時の火災、夜間を想定した避難訓練を年6回実施している。その内年1回は、消防署の協力を得て、地域住民と一緒に実践的な訓練を行っている。運営推進会議で、電子錠や職員通用口の鍵、非常階段利用、避難場所の確保など、災害時に必要な情報を話し合っている。自治会長を中心とした緊急連絡網の通報システムがある。備蓄もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報取り扱いにも注意している。研修を行うとともに、日常的には現場の中で指導も行われる。	事業所の理念にある「尊厳のある生活を守る」ということを職員全員が理解しており、利用者の自尊心を傷つせず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応等があれば管理者、ユニットリーダーが注意し、指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表出しやすいような環境をつくるよう努めている。自己決定できる声掛けを心掛けている。誕生日には利用者の希望を聴き入れ誕生日当日に希望に沿ったお祝いを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って一日を過ごせるよう、職員側の都合を優先しないよう、利用者の気持ちを察しながら支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が来所するので、殆どの利用者が利用しているが、馴染みの理美容院を希望する人には家族等の協力も得ながら行っている。自分が使っていたお気に入りのシャンプーなど持ってきてもらうなど今までのことや物が途切れない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも利用者と職員の手作りで、彩りや盛り付けを工夫し、食事が楽しみになるよう心掛けています。利用者と職員が一緒に調理・準備・食事・片付けをしています。職員は利用者と一緒に食事を楽しんでいます。	三食とも事業所で調理している。利用者は野菜の下ごしらえや調理、味付け、盛り付け、テーブル拭き、下膳などを職員と一緒にしている。献立は、過去のメニューを基に、併設施設の調理師と相談し、季節に応じたものや利用者の好みを聞いて作成し、旬の食材や、畑で収穫した野菜(ゴーヤ、なすび、さつまいも等)を活用している。行事食(お節、巻きずし、いなりずし、彼岸のおはぎ、夏のそうめん流し、クリスマスのチキン)や、おやつづくり(プリン、たこ焼き、ホットケーキ等)、弁当をつくっての戸外食、誕生日での個別外食(職員もしくは家族同伴)、外食(市役所やショッピングモールの食堂、寿司店、ラーメン店、甘味処や喫茶店)など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を職員が把握し、一日の量が確保できるようにしている。状態に応じて食事形態を変えたり、本人の好みも把握して食べたい飲みたいと思えるものに変えるなど工夫しながら確保できるように努めている。一日の食事量や水分量を確認できるよう記録し対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方へは声かけを行い、介助が必要な方には義歯を自分で出してもらうなど出来ることは自分でしてもらうように援助している。夜は義歯をポリドント洗浄し清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、適切な声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動に毎日取り組み、バランスのとれた食事を提供し、便秘気味の方には繊維質のものや牛乳などを提供し、便秘改善に努めている。水分量にも気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴の日を作っており、ゆっくり本人の時間に合わせて入浴してもらっている。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯等にして入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は毎日、13時から16時までの間可能で、希望があれば午前中にも対応している。利用者の状態によって、清拭やシャワー浴、足浴にも対応し、入浴剤やゆず湯を使って入浴が楽しめるように支援している。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決まっておらず一人ひとりに応じた就寝時間となっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師に症状に応じて相談している。薬の目的や副作用など確認を行い、服薬後の様子の変化なども報告するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片付け、洗濯干し、洗濯物たたみなど個々の力を活かした役割づくりに努めている。また小物づくりやおやつ作りなど楽しみや気分転換につながる支援を行っている。	風船バレー、ラジオ体操、テレビ体操、リハビリ体操、転倒予防体操、口腔体操、歌を歌いながら体を動かす、音楽療法、童謡や唱歌を歌う、カラオケ、ぬり絵、はり絵、押し花づくり、絵手紙、読書、文章を書く、献立を書いて掲示する、折り紙、新聞折り、鍋敷きづくり、ボタン付け、習字、計算ドリル、漢字ドリル、間違い探しゲーム、書き取り、公文式、しりとり、童話で回想、テレビ視聴、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、観葉植物の水やり、食事づくり、おやつづくり、テーブル拭き、下ごしらえ、炒めもの、フライを揚げる、誕生日に希望を聞いて個別の夕食、屋上での青空コンサート、家族の協力を得てのゴーヤ、なすび、さつまいもなどの畑づくりと収穫、法人の夏祭りでの買い物、職員との交流、敬老会参加、家族の協力を得ての買い物など、利用者の思いを把握し、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園への散歩や季節に応じての外出などで気分転換を図り、本人の希望に応じて買い物や地域行事にも参加している。	近隣の散歩、敷地内の公園へ行く、自宅周辺へのドライブ、初詣、法人の夏祭り、自治会のふれあいまつり、敬老会、季節の花見(桜、バラ、菖蒲、あじさい、紅葉)、個別の希望による外出(食事、喫茶店、ショッピングモール、時計店)、家族の協力を得ての外出など、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は事務所の金庫で預かっているが、状況に応じておやつや洋服類等、本人が購入したい物は使えるように支援している。職員と一緒に買い物に行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙や電話ができるよう支援している。年賀状を出すなど支援している。。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ち、気持ちよく使えるようにしている。食堂の窓は大きく景色が良く見える。季節に合った壁面制作を利用者と一緒に作り利用者の作品は展示して楽しめるよう工夫をしている。	広々とした共用空間の中央にはテーブルがあり、台所からは調理の音や匂いがしている。窓際には、ソファを配置し、仲の良い利用者同士でくつろいでいる。壁には、利用者の笑顔いっぱいのスナップ写真やお気に入りのプロ野球のポスター等が飾っており、利用者が自由に居心地良く過ごせるよう工夫している。浴室の浴槽は滑らないように安全に配慮し、脱衣所は、暖房がきいているなど、室温や明るさに配慮して、居心地良く過ごせるように工夫している。。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで利用者同士が談笑したり、一人でゆっくり読書をしたりと楽しい時間を過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本や写真、手作りの作品、その他諸々持ち込んでもらい今までの生活に近い空間づくりを支援している。壁面には自作品や写真を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	衣装かけ、衣装ケース、たんす、自作品や単行本、文房具、丸テーブル、籐の椅子、テレビ、置時計、人形、ぬいぐるみ、観葉植物、水やり用の小型のやかん、プレスレット等の紙作品、遺影、御鈴、家族写真、家族写真付きカレンダー、自分のぬり絵や切り絵作品、自分の気持ちを書いた紙、化粧道具など、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの身体能力に応じた生活をできるだけ支援し下膳、掃除、洗濯物干し等職員と共にできることやわかることを行い、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。手すりや歩行器を使用し、残存機能を活かし歩行している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあかしあ

作成日：平成 29 年 6 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	全職員が、急変時や事故発生時に初期対応や 応急手当の実践力を身につけているとは言え ない	入居者の急変時に、応急手当など初期対応 を迅速に行うことができるよう、全職員が実 践力を身につける	医療連携をとっている看護師を講師に、現在入 居の方の病状をもとに今後起こりうる状態を想 定した実践講習を行う。また消防署の協力で、 救急救命の専門家を派遣してもらい、様々な ケースの緊急時の対処方法を学ぶ。普通救命 講習を全員が受ける。これらを継続していく。	2年
2	5 (4)	運営推進会議の地域での参加メンバーが少な い	地域での事業所に対する理解者・助言者を 増やす	幼稚園との交流の機会をつくる。同時に運営推 進会議への参加を呼びかける。その他各地域 団体へ参加を呼びかける	2年
3	4 (3)	現状、自己評価を全職員で取り組んでいるとは 言えない	全職員が評価の意義を理解し、評価を活か した改善を全員で取り組む	自己評価のすべてに全職員が関わる。全項目 について一人一人が考え、改善点を見出して いく。全職員が集まるミーティングの時間を活 用し話し合いを持つ。時間的に余裕が持てるよ うに早めに対応する	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。